

生駒市農業ビジョン推進懇話会 第5回会議録 (要点筆記)

- 1 開催日時 平成28年7月27日(水) 午後2時00分～午後3時30分
- 2 開催場所 北コミュニティセンターISTA はばたき 201 会議室
- 3 参加者 相川氏 有山氏 井上氏(副座長) 桂氏(座長) 上武氏 坂本氏 高枝氏 田中氏
中世古氏 平沢氏 (五十音順)
- (事務局) 平井地域活力創生部長 平田経済振興課長 巽経済振興課長補佐
知浦経済振興課長補佐 高橋農林係長 長田農林係員

4 会議の公開・非公開 公開 傍聴人数 なし

- 5 議題 (1)平成28年度の取り組みについて
- ・特産品化事業
 - ・地元飲食店と農家との連携促進事業
 - ・地産農作物買い取り事業
 - ・地域特産品販売促進事業
- (2)生駒市商工観光ビジョン懇話会への参加について
- (3)第35回農業祭出店について

6 審議内容

(1)平成28年度の取り組みについて

座長 4つの事業は28年度に新規事業として既に取り組んでいて、次回懇話会の時に、途中経過や実績が上がってくるのか。

事務局 未定。

座長 次回、特産品化事業と地元飲食店と農家との連携促進事業について重点的にご意見をください。

参加者 地元飲食店と農家との連携促進事業というのは、市内飲食店に限るのか。

事務局 市内に限る。

座長 どんな系列の飲食店があるかなど調べてほしい。

事務局 地元飲食店にアンケートを行うことが、需要を把握するうえで大切であると思う。次回会議の時に、アンケート案を見て議論してもらえたらと思う。

(2)生駒市商工観光ビジョン懇話会への参加について

座長 本懇話会の中から2名が出て、全体会で意見を述べてもらう。次回から本懇話会にもコンサルタントの人が同席するという事か。

事務局 コンサルタントから意見を言うことはないが、商工観光ビジョンに反映させるため、傍聴させてもらえたらと思う。

座長 農業は地域の資源として重要な役割を果たす。京都では、観光客に京野菜の収穫体験をしてもらう事例があり、色んな面で農業と商工観光ビジョンは結びつく可能性があると思う。質問がなければ、商工観光ビジョンに参加してもらえる人を自薦・他薦問わず選出したい。

参加者 商工観光ビジョンについての話を聞いていて、色んな面に精通した方が良いと思う。農業委員会は遊休農地のことを把握しているため、高枝会長を推薦する。また青空市場などで

主になって活動されている農業振興協議会の井上会長が豊富な知識を持っているので適任だと思う。

座長 遊休農地に果樹を植えることを新規事業として考えているため、地域の農地を把握していることが必要であると考え。また、市内にどんな農業の資源があるか分かっていることも必要である。本懇話会の議論を踏まえて発言してもらえたらと思う。お二人が良い方は拍手をお願いします。

参加者 (拍手)
(全員)

座長 お二人よろしくをお願いします。

(3) 第35回農業祭出店について

座長 今年何をするかご意見をください。

副座長 今年は35周年であるため、何かできたらと思う。昨年のポン菓子人気があった。

座長 昨年の反省として、野菜販売の場所とポン菓子の場所が離れてしまい、ポン菓子を誰がやっているのか分からない状態になっていた。今年するのであれば、野菜とポン菓子の場所を並ぶようにして、懇話会が行っていることをアピールした方が良い。

事務局 農業祭当日、ポン菓子に関わる人はどのくらいいるのか。また、片づけまでしてもらいようをお願いします。

座長 水の確保と、その場で掃除ができるようにしてもらえたら片づけまでです。何人か手があらし、ポン菓子をするということで良い。また新規就農者の方の野菜の試食もするか。

参加者 地元飲食店と農家との連携促進事業として、市内のレストランのシェフが野菜を使った料理を作って売ることにはできないのか。

座長 試食ではなく、販売するということか。

参加者 販売するということ。調理はその場で温めるだけで、最後の仕上げをするような状態を用意してくる。

参加者 販売するものの単価はどのくらいか。

参加者 バリエーションがあるので、客層に合わせて作ってくれる。昼食を提供するというのであれば、食べる場所が必要になる。新たな食べ方を知ってもらい、食文化の底上げに繋がればと思う。

事務局 同日、商工観光まつりを開催しており、そちらでは1ブースあたりの出店料をとっている。そのため、農業祭は無料で出店できるということになると、釣り合いがとれないことが懸念される。試食であれば問題ない考える。

参加者 野菜をどのように調理したら良いのか、食べることが主というより、食べ方の紹介ができたら良いと思う。

参加者 今年は無理かもしれないが、連携促進として何年後かには実現できる体制を作る必要が出てくると思う。

座長 では、今年も野菜の販売と試食をするということで良いか。どなたか、試食の方に回ってもらえるか。

参加者 野菜の試食は調理せず、生で食べてもらっても良い。試食は売上げにも繋がるのでした方が良いと思う。

- 座長 基本は生で提供する。それぞれの労力でできるかという人的課題が残るが、ポン菓子と野菜販売・試食をするということで良いか。
- 参加者 はい。
- 座長 懇話会は本来であれば意見を求める場であるため、現場に出ていくのが良いのかなとは思いう。実働組織は別にあった方が良いのではないかと考える。次回ご意見をもらえたらと思う。
他にご意見はないか。
- 参加者 最近、市内のスーパーに市外の人でも出荷できるようになってきたため、販売できる場所が減ってきた。地元飲食店との連携を進めてほしい。新規就農者のためにも、作った農作物を売れる場所が必要である。
- 参加者 農業者側にも要求に対応できる能力がないといけない。
- 参加者 農地を借りたいと窓口に行っても農地を探してもらえないと感じている。申請用紙もなく農業委員会の会議にあげてほしい。
- 事務局 平成27年度から農地台帳システムが義務付けられて、調整区域内の農地をシステムで管理している。それに合わせて利用状況調査をして、遊休農地の把握をし、遊休農地に判定された農地に対して利用意向調査をしている。最終的には農地中間管理機構が農地を集積して貸し出すとなっているが、この適用は農業振興地域があるところに限られるため、本市は農業振興地域がなく、適用されない。このことから本市では、独自に情報を集める必要があり、台帳を作り始めている。
ただ、本市では平成23年以降新規で11名の方が就農を始めていて、表彰もされた。積極的に農地の斡旋をしている。